

県内における過去の自然災害の発生事例

過去に経験した自然災害のうち被害が深刻であった事例について被害状況をアンケートするとともに、気象庁等が公表している過去の災害事例に関する情報について、台風、大雨による被害を整理した。

発生年月	自然災害の名称	気象概況	市町名と被害
S31.9	台風 12 号	台風 12 号が九州西方海上から日本海を北上した ¹⁾ 。	(平戸市) 住家全半壊流失 387 棟, 床上床下浸水 244 棟
S34.7	豪雨	13 日 21 時から 22 時ごろにかけ梅雨前線は長崎県内を北上し、平戸では 1 時間に 50mm を越える非常に激しい雨が 2 時間続いた。その後 14 日 08 時 30 分のレーダー観測によれば、平戸で 09 時までの 1 時間に 86.7mm の豪雨となり、20.8m/s の南南西の突風を観測した ²⁾ 。	(平戸市) 死者 12 人、重軽傷 5 人、全壊家屋 75 棟、床上浸水 659 棟、
S57.7	7.23 長崎大水害	九州北部地方の梅雨は過去に例のないほど極端な変化を伴って推移した 6 月 13 日頃に梅雨入りしたが 5 月に続いて雨の降る日が少なく、6 月の月降水量は 佐賀、福岡、下関などで少雨記録を更新し、長崎、熊本も平年に比べて月降水量は少なかった。 この少雨傾向は 7 月上旬まで続いたが 10 日になって梅雨前線が次第に九州付近まで北上し、11 日は一転して大雨が降り、その後 25 日まで曇りや雨の日が続いた。とくに、23 日午後から降り出した長崎市付近の大雨では局地的に 1 時間 100mm を超える猛烈な雨が 3 時間以上にわたって降り続いた。 長崎県長与町役場では 23 日 19 時から 20 時までの 1 時間に 187mm の猛烈な雨を観測した。 梅雨前線の活動により 7 月中旬に熊本県や長崎県では 500 ないし 800 mm、所によって 1000 mm を越す大雨が降り地盤が緩んで居る所へ今回の大雨となった。特に傾斜地の多い長崎市付近で、3 時間に 300 mm を越す激しい雨が降り、又満潮時とも重なったため未曾有の大きな被害となった ²⁾ 。	<長崎市> (1) 人的被害 死者 258 人 行方不明者 4 人 負傷者 758 人 (2) 家屋の被害 全壊 447 棟 半壊 746 棟 一部壊 335 棟 床上浸水 14,704 棟 床下浸水 8,642 棟 その他非住家 1,669 棟 (3) その他の被害 農林関係 420 億円 水産関係 19 億円 土木関係 240 億円 商工関係 856 億円 等被害総額 2,119 億円 <長与町> 全壊:22 棟、半壊 58 棟、一部破壊:140 棟、床上浸水:474 棟、床下浸水:685 棟、がけ崩れ:394 箇所、地すべり:7 箇所、死者:5 人、負傷者:14 名 (内、重傷者 5 名)
S62.8	台風 12 号	大型の非常に強い勢力を保ちながら東シナ海を北上し、31 日 00 時には福江市の西約 90km の海上を通過し、31 日 04 時頃対馬のごく近く of 西海上を北東進した ²⁾ 。	(平戸市) 住家全半壊流失 1,200 棟
S63.5	大雨による河川の越水等、洪水	温暖前線の南下に伴い、3 日午後から降り始めとともに局地的大雨となり、4 日未明まで続いた。最強雨時の 2 時間降水量は、アメダス島原観測所 (島原消防署) で 232 mm (15-17 時) という、春には珍しい強烈な豪雨であった ³⁾⁴⁾ 。	(島原市) 床上浸水 310 戸、床下浸水 721 戸

H2.7	大雨	九州の多くの河川で大きな洪水が発生。長崎県では1時間雨量最大79mm、連続雨量498.5mmを記録 ³⁾ 。	(川棚町)住宅半壊2棟、住宅一部損壊8棟、床上浸水97棟、床下浸水287棟、道路破損55カ所、河川破損78カ所 (波佐見町)全壊3戸、半壊1戸
H3.9	台風第19号	台風は27日03時に奄美大島の西約300kmの海上に達し、加速しながら北北東へ進み、さらに九州の西の海上を北北東へ進み、大型で非常に強い勢力(中心気圧940hPa、中心付近の最大風速50m/s、風速25m/s以上の暴風域の半径300km)を保ったまま16時過ぎに長崎県佐世保市の南に上陸した ²⁾ 。	(長崎市)(1)人的被害 死者5人 負傷者257人 (2)家屋の被害 全壊158棟、半壊2,458棟、一部壊87,955棟、床上浸水61棟 床下浸水138棟 その他非住家11,964棟
H5.8	大雨	8月16日から20日にかけて、停滞前線は対馬海峡から九州付近に停滞した。17日は長崎地方北部で、19日は県内ほぼ全域で日降水量が100mmをこえた。20日早朝、島原市の眉山と水無川、中尾川流域で相次いで土石流が発生した ²⁾ 。	(島原市)大雨による眉山六溪で土石流発生
H29.6	大雨・洪水	九州南部付近にあった梅雨前線が、29日に北上し30日は対馬海峡に停滞した。壱岐市では、29日夜遅くから30日未明にかけて雷を伴った猛烈な雨となり、壱岐市芦辺では23時42分までの1時間に120.0mmの雨を観測し日最大1時間降水量、日最大3時間降水量が観測史上1位を更新し50年に1度の大雨となった。日最大24時間降水量も6月の月降水量の平年値を超える雨量となり観測史上1位を更新するなど記録的な大雨となった ²⁾ 。	(壱岐市)道路災害42件、河川災害4件、林地災害100件、農地災害300件等、(上記はH29.7.3把握分)
R1.7	台風5号	台風第5号周辺や太平洋高気圧の縁をまわって流れ込んだ暖かく湿った空気の影響で西日本では20日から21日にかけて局地的に猛烈な雨が降った。特に、長崎県の五島と対馬では19日夜から20日昼過ぎにかけて発達した雨雲が次々と流れ込み、数十年に一度の記録的な雨となり、20日10時5分に大雨特別警報を発表した ⁵⁾ 。	(対馬市)床上浸水6棟、床下浸水19
R1.8	令和元年8月豪雨	8月26日朝には九州南部付近にあった前線が、27日には対馬海峡付近まで北上し、前線に向かって暖かく湿った空気が流れ込み、北部、対馬、上五島を中心に猛烈な雨となった ²⁾ 。	(松浦市)土砂崩れ
R1.9	台風17号	9月19日に沖縄の南で大型の台風として発生した台風はやや発達しながら東シナ海を北上し、進路を北東に変えて22日朝には長崎県五島に接近 ²⁾ 。	(対馬市)床上浸水95棟、床下浸水146棟
R2.7	令和2年豪雨	7月6日から8日にかけて梅雨前線が九州付近に停滞し、前線に向かって暖かく湿った空気が流れ込み、6日から8日にかけて局地的に猛烈な雨となり、6日15時20分に大村市付近で約110ミリ、6日15時30分に東彼杵町付近で約110ミリを解析し、記録的短時間大雨情報を発表した ²⁾ 。	(時津町)土砂崩れ等

R2.8、9	台風 9 号 及び 10 号	<p>9月1日に小笠原近海で発生した台風第10号は発達しながら南西に進み、その後、日本の南を西北西に進んで4日18時には中心の気圧は920hPa、中心付近の最大風速は50mの非常に強い勢力に発達した。</p> <p>7日には中心の気圧945hPa、中心付近の最大風速45mの大型で非常に強い勢力で長崎県五島列島を通過した。</p> <p>長崎県では6日夜のはじめ頃から7日昼前にかけて風速25m以上の暴風域に入った。【大雨の状況】</p> <p>長崎県では大気の状態が非常に不安定となったため、五島市で7日01時59分までの1時間に88.0mmの猛烈な雨となった。</p> <p>6日から7日までの総降水量は、福江で178.5mm、上大津で165.5mm、雲仙岳で123.5mm、有川で107.5mmを観測した。</p> <p>【暴風の状況】</p> <p>最大瞬間風速は、野母崎で59.4m、鰐浦で48.9m、美津島で44.2m、大村で42.2m、石田で40.6m、松浦で35.0m、大瀬戸で32.1m、口之津で30.3mの観測史上1位の値を更新した。</p> <p>また、最大風速は、巖原で31.4m、美津島で31.0m、鰐浦で29.7m、松浦で16.5mと観測史上1位の値を、佐世保で26.3mと9月の1位の値をそれぞれ更新した²⁾。</p>	<p>(佐世保市) 台風の規模、報道等の影響もあり、市内避難所への避難者が約5,600人にのぼった。</p> <p>(西海市) 住家被害139件、非住家被害152件、公立文教施設被害、28件、農林水産業施設被害104件、公共土木施設被害155件 他</p> <p>(五島市) 人的被害: 2名(軽傷)、住家被害: 全壊1軒、停電: 18,220戸、断水: 4,800戸</p> <p>(小値賀町) 住家全壊2件、半壊4件等</p> <p>(対馬市) 負傷者1名、住家損壊30棟、土砂崩れ・路肩崩壊等19件</p> <p>(壱岐市) 停電6,765戸、倒木による通行止め1箇所、高速船乗り場浮き桟橋損壊、ケーブルテレビの断線202件等</p>
R3.8	令和3年8月大雨	<p>8月11日から19日にかけて前線が九州付近に停滞し、前線に向かって太平洋高気圧の周辺から暖かく湿った空気が流れ込んだ影響で大気の状態が非常に不安定となり、記録的な大雨となった。</p> <p>8月14日02時15分に東彼杵町、川棚町、波佐見町、05時05分に長崎市、佐世保市(宇久地区を除く)、西海市(江島・平島を除く)に大雨特別警報を発表した²⁾。</p>	<p>(西海市) 住家被害36件、非住家被害18件、農林水産業施設被害76件、公共土木施設被害55件他</p> <p>(雲仙市) 【人的被害】 死者3名、負傷者1名 【住宅被害】 住家全壊2棟、住家半壊1棟、床下浸水4棟 (東彼杵町) 床下浸水5棟</p>
R5.9	令和5年9月線状降水帯	<p>前線に向かって暖かく湿った空気が流れ込んだため、9月14日～15日に九州北部地方で線状降水帯が発生し、大雨となった⁶⁾。</p>	<p>(松浦市) 床上浸水、床下浸水(棟数不詳)、道路路肩崩壊など</p>

(参考資料等)

- 1) 四国災害アーカイブス (<https://www.shikoku-saigai.com/archives/9240>)
- 2) 過去の気象災害(長崎県) (長崎地方気象台 <https://www.jma-net.go.jp/nagasaki-c/shosai/saigai/index.html>)
- 3) 荒生公雄他, 1988年5月3日の島原地方における豪雨の降雨特性(長崎大学教育学部 自

然科学研究報告 第 42 号 37～50(1990))

4)九州災害履歴情報データベース (一般社団法人九州地域づくり協会

5)災害情報 (内閣府防災情報のページ <https://www.bousai.go.jp/updates/index.html>)

6)令和 5 年 9 月 14 日、15 日に長崎県 (九州北部地方) で線状降水帯が発生した事例 (気象庁_大雨事例等における防災気象情報の精度検証と発表基準の改善 <https://www.jma.go.jp/jma/kishou/known/jirei/index.html>)